

しじょうちよう
四十町通り(東砂6〜8丁目)

葛西橋通りの葛西橋西詰交差点から南へ続く通りが四十町通りです。

この辺りは深川村開発者の深川八郎右衛門(数代目)が万治3年(1660)頃に八郎右衛門新田を開発したのがはじまりで、通称四十町といわれていました。

四十町通りはかつて舟入川でした。川をはさんで約50軒ほどの民家が建ち並び、砂村ねぎなどの畑作を中心とした農業と海苔養殖の半農半漁の家がほとんどでした。樹皮から縄を作るといいうアキニレの街路樹が続く通りを歩くと、



MAP

四十町通り

至葛西橋

ハレーファン
必見のBIKE SHOP

東陽町→塩戸駅
のバス路線ごす

昔、金魚の養魚場
があった

話を聞いた
化粧品店の
大石さん

四十町通りは、
昔、川が流れた川

旧大石家
跡地

袖ヶ浦
消防署前交差点

昔、会社の
おな
内構えの旧家

旧大石家住宅は江戸時代後期に建てられた区内最古の民家です。荒川河口の町として栄えた名残

昔から代々続いているという旧家が目につきます。「仙台堀川公園内に保存されている『旧大石家住宅』は舟入川の南端の堀留にあつたんですよ。ホラ、その角のマンションが建っているところね。私の母の時代には飲み水を売る水舟が来ていたそうです」と大石化粧品店のおかみさん。

「袖ヶ浦」の名前がバス停や交差点に残っています。戦前まで砂町海水浴場とともに袖ヶ浦海水浴場がありました。地形が着物の袖に似ていることから袖ヶ浦と呼ばれ、アサリもたくさんとれたそうです。民家の屋根の上にもそびえる荒川の堤防は幾多の洪水の繰り返しから造られました。今は憩いの広場として公園になっています。夏を代表する江東花火大会も終り、可憐な花々が川風に揺れています。